

キャリアインタビューの取り組みと展望： 大阪樟蔭女子大学におけるキャリア教育の一事例から

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2016-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4040

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



キャリアインタビューの取り組みと展望 —大阪樟蔭女子大学におけるキャリア教育の一事例から—

学芸学部 ライフプランニング学科 高松 直紀

要旨：厚生労働省が開発しているキャリア教育のためのプログラムにおいて、職業理解を促す手法として、キャリアインタビューが推奨されている。大阪樟蔭女子大学のキャリア教育においても職業理解のためにキャリアインタビューを取り入れており、インタビューを通して職業やその業務内容についての理解などといった仕事研究を行い、学生が社会で働くことについて理解を深め、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を考えることを目的として実施した。本学のキャリアインタビューの特色としては、インタビューに必要なコミュニケーションスキルを高めるためのプログラムを取り入れたり、効率よく仕事研究が実施できるように、インタビュー対象者にインタビューする必要最低限の情報をまとめたキャリアインタビューシートを学生に配布したり、インタビュー実施後には、インタビュー内容をPowerPointにまとめて発表し、最後にその内容をもとにグループディスカッションを行い、学生同士が学びを共有する取り組みを実施した。これらの本学キャリアインタビューの取り組みを報告するとともに、キャリアインタビュー実施後に行った学生へのアンケート調査結果からわかった今後の課題について報告する。

キーワード：キャリアインタビュー、社会人インタビュー、キャリア教育

はじめに

大学等において効果的なキャリア教育を実施するために、キャリア・コンサルティングのツールやノウハウなど、労働行政が有する知見を活かしたキャリア教育のためのプログラム集を厚生労働省が開発している¹。そのプログラム集の中に、職業理解を促す手法として、キャリアインタビュー（社会人インタビュー）が推奨されている。また、平尾（2005）はキャリアインタビューを体験した学生へのアンケート調査の結果を分析し、考察した結果から、キャリアインタビューが少なからず学生のキャリア意識に変化をもたらすことができた²と報告している。筆者が勤務する大阪樟蔭女子大学（以下、本学とする）のキャリア教育においても、学生の職業意識の向上を目的として、キャリアインタビューを取り入れている。

本稿では本学のキャリア教育におけるキャリアインタビューの取り組みと、学生へのアンケート調査結果から今後の課題についてまとめたので、それを報告する。

第1節では、筆者が本学のキャリア科目の一つであるキャリア設計において取り入れたキャリアインタビューの授業概要について、第2節では、キャリアインタビュー実施者へのアンケート調査の結果とその分析について、第3節では、キャリアインタビューを通しての学生の

学びについて、第4節では、キャリアインタビューにおける今後の課題について報告する。

1. キャリアインタビューの授業概要

本学におけるキャリア教育は「自らのキャリア選択に能動的・自主的・肯定的に取組み、キャリアを選択・決定できる」ことを目標とし、キャリア設計・キャリア開発・キャリア研究の3つの科目と、就業体験型インターンシップ・学生提案型インターンシップという2つのインターンシップで構成されている。

本稿で取り上げるキャリアインタビューは、本学の2年生春期配当科目であるキャリア設計の授業の一環として実施したものである。キャリア設計はキャリア科目の基礎的な位置づけとしており、自己理解を深めること、コミュニケーション能力を高めること、キャリアインタビューを通して働くことについて考えることを軸に展開される科目である。履修生は112名であり、その内訳は学芸学部、国文学科24名・国際英語学科6名・ライフプランニング学科18名・被服学科被服学専攻9名・被服学科化粧品学専攻9名、心理学部、心理学科24名・臨床心理学科22名である。

キャリアインタビューはキャリア設計の全15回の授業のうち、主に第10回から第14回の5コマで実施

今回、キャリアインタビューの授業を企画するにあたり、社会で働く人にインタビューを実施することから、インタビューにおけるコミュニケーションスキルを高めるためにアクティブリスニング（積極的傾聴法）を身につけたり、タイプ別コミュニケーションスタイルを学んだりする機会も授業の中に取り入れた。また、履修生が2年生ということもあり、働くことへのイメージができていない学生が多いと予測し、そのような学生がキャリアインタビューをする場合、質問事項に困り、キャリアインタビューが成立しないことを懸念したため、キャリアインタビューを行う際に、効率よく仕事研究が実施できるように、インタビュー対象者に

第10回 コミュニケーション能力を身につけよう!

提出シート

キャリアインタビューシート (No.1)

学科名

年生

曜日

時間

学生番号

氏名

第9回のホームワーク (P81) で依頼に挙げた社会人の方にインタビューシート No.1 と No.2 を使用し、インタビューをおこない、下記にまとめましょう。

氏名		年齢		業界	
企業名		職種		販賣い商品 サービス	
勤務年数		通勤手段/時間		あなたとの関係	

時間	1日の仕事の流れ	具体的な仕事内容
:		
:		
:		
:		
:		
:		この仕事を選んだ理由
:		
:		
:		
:		この仕事のやりがい(魅力)
:		
:		
:		
:		この仕事の大変なところ
:		
:		
:		
:		
:		

93

(出所) 筆者作成の教科書より引用

キャリアインタビュー実施後には、インタビュー内容をPowerPointにまとめて発表し、最後にその内容をもとにグループディスカッションを行い、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力とその能力を養うためにどのような方策があるかを考える機会を設けた。キャリアインタビューの授業概要について以下の表1に示す。

第9回 自分を表現しようⅢ
<p>授業の後半に導入として、キャリアインタビューについて解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 ・実施方法 ・キャリアインタビュー実施前の事前研究 <p>ホームワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第12回授業開始までにキャリアインタビューを実施してくること
第10回 コミュニケーション能力を身に付けるⅠ
<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアインタビューで活用するアクティブリスニングの手法 <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブリスニングを用いた学生同士のインタビューワーク ・インタビューの相互評価 ・キャリアインタビューシートの解説

第11回 コミュニケーション能力を身に付けるⅡ
<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスタイルのタイプ分け ・タイプ別コミュニケーションスタイルの特徴 ・タイプ別コミュニケーションの方法 ・マナーの重要性 ・敬語の活用法
第12回 発表資料作成
<p>講義及び個人ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション資料の作成
第13回 プレゼンテーション
<p>プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアインタビューシートの内容に沿って作成した資料を用いてプレゼンテーションを実施
第14回 グループディスカッション
<p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションの基本的な進め方 <p>グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力と具体的な方策について」 ・グループ発表

2. 学生へのアンケート調査

キャリア設計のカリキュラムの1つであるキャリアインタビューの実際を把握し、今後の授業改善に向けての課題を明らかにするために、キャリアインタビューを実施した学生を対象にアンケート調査を行った。アンケートは第15回目の授業で配布し、アンケートの目的を説明した上で同意が得られた学生に回答を求め、その日の授業終了後に回収した。

アンケート回収数は90であり、アンケートの有効回答数は85であった。それらの内訳は、学芸学部、国文学科21名・国際英語学科6名・ライフプランニング学科16名・被服学科被服学専攻9名・被服学科化粧学専攻6名、心理学部、心理学科17名・臨床心理学科10名であった。

以下にこのアンケート結果の内容とそこから考えられることを順に示す。

2-1. 将来のビジョン

将来のビジョンについて「就きたい職業が決まっている」「職業までは決まっていないが、働きたい業界は決まっている」「働きたいとまでは断言できないが、働いてみたい興味のある業界はある」「まだ何も決まっ

表2 学生の将来ビジョン

就きたい職業が決まっている	16.5%
職業までは決まっていないが、働きたい業界は決まっている	27%
働きたいとまでは断言できないが、働いてみたい興味のある業界はある	34.1%
まだ何も決まっていない	21.1%
その他	1.2%

ていない」「その他」の5選択肢で質問をした。結果を表2に示す。

就きたい職業・働きたい業界・興味のある業界が定まっている学生は77.6%であり、大学2年生の春期にしては予想していたよりも将来の方向性が決まっている学生が多かった。その理由としては、被服学科の被服学専攻・化粧学専攻といった専門性の高い学科の学生が履修していることが考えられる。また、ライフプランニング学科ではファイナンシャルプランニング技能士検定の資格取得を推奨していたり、初年次の基礎演習の授業からSPIなど就職活動における筆記試験対策を行っていたりしているため、就職に向けての意識づけが高くなっている可能性が影響していると考ええる。さらに、心理学科・臨床心理学科では精神保健福祉士の資格取得を目指すものもいることから、このような結果が表れたのではないかと考える。

2-2. インタビュー対象者

今回キャリア設計で実施したキャリアインタビューの対象者については①現在、社会人として働いている人②学生・専業主婦は不可③できればフルタイムで働いている人が望ましい④男女は問わない⑤本学教員は不可という条件を提示し、自由に選出させた。インタビューに取り上げられた職業には適度のばらつきがあり、偏りは見られなかった。学生が選んだインタビュー対象者の内訳は親族75.3%・親族以外24.7%であった。また、選んだ理由としては「身近であったから」が84.7%・「興味のある仕事をしているから」が5.9%・「その他」が9.4%であった。さらに、「インタビュー対象者の人選に困ったか」の質問に対して、「そう思う」が28.3%、「どちらでもない」が9.4%、「そう思わない」が62.3%であった。

就きたい職業・働きたい業界・興味のある業界が定まっている学生が 77.6%いるにも関わらず、75.3%の学生が身近な親族にインタビューを実施していることから、自身の就きたい職業・働きたい業界・興味のある業界で実際に働いている人物が学生の身近にいないことが考えられる。

また、就きたい職業・働きたい業界・興味のある業界が定まっている学生が 77.6%いるにも関わらず、人選に困った学生が 28.3%であったことから、学生にはキャリアインタビューの目的について「社会で働く人に働くことの意義や職業選択の基準、社会で必要とされる能力などキャリアに関するインタビューを行い、自分のキャリアについて考えることを目的とする」と提示していたため、就きたい職業・働きたい業界・興味のある業界があっても、それらを深めることまでは今回の課題として捉えられず、身近な親族を対象者として選択した可能性が考えられる。

2-3. インタビューの所要時間

「インタビューの所要時間はどれくらいかかりましたか、実際にインタビューした時間を記載して下さい」という表現で具体的に要した時間をアンケートに記述させた。結果を表 3 に示す。平均値は 40.4 分、中央値は 30 分であり、学生やインタビュー対象者に大きな負担がかかっているというわけではないように考える。

表 3 インタビューの所要時間

平均値	40.4 分
中央値	30 分
最頻値	30 分

2-4. インタビューについて

キャリアインタビューに関する 3 つの質問（表 4）について、「はい」「どちらでもない」「いいえ」の 3 選択肢にて回答を求め、それぞれの回答に対してその理由を自由に記述できる欄を設けた。

キャリアインタビューシートに記載された内容以外の質問をした学生は 5.9%にとどまった。その理由としては、今回のキャリアインタビューではインタビューを実施するにあたり、対象者に取材する必要最低限の情報をまとめたキャリアインタビューシートを学生に配布しており、学生にキャリアインタビューシートの内容以外にも気になることがあればインタビューするように伝えられていなかったことで、学生がシートの内容以外は質問しなくて良いと判断した可能性が考え

表 4 インタビューに関する質問

	はい	どちらでもない	いいえ
キャリアインタビューシートの問題項目以外の質問をした	5.9%	—	94.1%
キャリアインタビューに困難さを感じた	30.6%	37.6%	31.8%
このインタビュー経験は、今後のキャリアを考える上で役立つ	71.8%	25.9%	2.4%

られる。

学生が独自の視点で質問した内容については、インタビュー対象者の職業を理解するために用語の解説を求めたり、インタビュー対象者が仕事を行う上で工夫していることを質問したり、社会で働くために必要な力を身に付けるための具体的な方法を質問していた。対象者の選出理由で、自身の興味のある仕事をしているからと答えた学生が 5.9%しかいなかったことから、自分の目指す職業に関するインタビューではなかったため、対象者の職業に興味を持てずにインタビューシートに沿った内容しか質問できなかった可能性も考えられる。

インタビューに困難さを感じた学生は 30.6%であった。キャリアインタビューを実施するにあたって、事前にインタビューシートを配布し、それに沿ってインタビューを実施させたため、自ら質問項目を考えなくて良いという理由から、困難さを感じた学生が少なかったのではないかと考えられる。困難さを感じた理由については、インタビューで聞き出したい情報をうまく引き出すための質問の仕方を考えることや、インタビューで聞き出した内容を他者にわかりやすく要約してまとめることが挙げられていた。

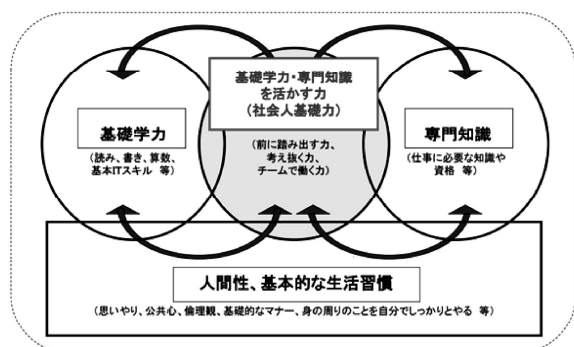
キャリアインタビューの経験が今後のキャリアを考える上で役立つと感じた学生は 71.8%であった。その理由として、「インタビューを通して働くことについて理解を深めることができたから」「インタビューを行うことで、コミュニケーションスキルを高めることができたから」「職業選択の幅が広がったから」「学生時代に身に付けておくべきことがわかったから」などが挙げられた。

3. キャリアインタビューからの学び

キャリアインタビュー後、キャリアインタビューシー

トの内容に沿って作成した資料を用いて実施したプレゼンテーションの中で、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を発表させた。能力に関しては一人一つではなく、個人が必要と感じたものに関しては複数発表させるようにした。授業を企画・実施するにあたって、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力とは、経済産業省が発表している「社会人基礎力」の能力の全体像²（図2）をイメージしていた。「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が提唱しているものである。社会で働くためには「人間性、基本的な生活習慣」「基礎学力」「専門知識」のどれが欠けてもならないと考える。

図2 能力の全体像



（出所）経済産業省ホームページ 社会人基礎力より

実際に学生がプレゼンテーションで取り上げた、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を以下の表5に示す。

キャリアインタビュー対象者の職業に特化した内容が表5の回答に反映されていると考えられるが、「コミュニケーション能力」「礼儀作法」などは様々な人々と関わりながら仕事を行う上で、共通して必要となることから、多くの学生が取り上げていた。「人間性、基本的な生活習慣」「基礎学力」「専門知識」「社会人基礎力」のどれが欠けてもならないと考える中で、それぞれに関する能力が取り上げられ、学びを共有できた。よって、今回のキャリアインタビューの目的としていた、キャリアインタビューを通して、職業や業務内容についての理解などといった仕事研究を行い、学生が社会で働くことについて理解を深め、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を考えることは達成できたと考える。

表5 学生時代に身に付けておくべき能力の回答

基礎学力	
基礎学力	10 票
語学力	10 票
資格	8 票
パソコンスキル	7 票
専門知識	
専門分野の知識	10 票
社会人基礎力	
コミュニケーション能力（発信力・傾聴力）	45 票
柔軟性	5 票
実行力	3 票
創造力	3 票
主体性	2 票
状況把握力	2 票
規律性	2 票
人間性、基本的な生活習慣	
礼儀作法	15 票
忍耐力	9 票
健康・体力	8 票
一般常識	7 票
判断力	7 票
協調性	7 票
他人を思いやる気持ち	6 票
責任感	6 票
チャレンジ精神	5 票
行動力	4 票
積極性	3 票
努力	2 票
交渉力	2 票
社交性	2 票
1 票ずつ入ったもの	
清潔感、時間管理、信頼感、整理整頓、観察力、共感力、集中力、問題解決力、几帳面さ、考える力、統率力、記憶力、素直さ	

キャリアインタビューのまとめとしてグループディスカッションを行い、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力とその能力を養うためにどのような方策があるかを考えており、「コミュニケーション能力」を取り上げたグループでは、今後の学生生活を送る中でその能力を養うための方策として「グループワークを取り入れた科目を積極的に履修する」「接客

業のアルバイトに挑戦する」「インターンシップに参加し、社会人との関わりを持つ」などの具体的な行動が挙げられた。ここでは一事例のみ掲載したが、同じように、能力を養うための具体的な方策を考えることができたため、今回のキャリアインタビューの目的は達成できたと考える。

4. 本学キャリアインタビューにおける今後の課題

2年生春期配当科目であるキャリア設計で、キャリアインタビューの授業を企画するにあたり、将来のビジョンを定めることができていない学生が大半を占めると予想したため、今回の授業では様々な職業を知ること・社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を考えることを目的とした。そのため、キャリアインタビューの対象者については、自身の将来ビジョンに沿った人物を積極的に選出することは伝えられていなかった。どんな職業を取り上げても、社会で働く上で学生時代に身に付けておくべき能力を考えることはできるが、学生が興味のある職業であればあるほど、その職業を目指すために学生時代にしなければならぬことが明確になり、具体的な自身のキャリアを考えることができるであろう。将来のビジョンが定まっている学生にとってはそのビジョンに近い職業に就いている社会人にキャリアインタビューを実施するべきだと考える。今後の課題としては、キャリアインタビューの対象者を選択する際には、自身の将来のビジョンが定まっている学生にはそのビジョンに近い職業に就いている社会人に実施できるよう対象者選択の条件を修正するとともに、学生の将来のビジョンに近い職業に

就いている社会人に接触できるよう相談にのることも実施できるのではないかと考える。

5. おわりに

最後に、今回のキャリアインタビューを通して、将来のビジョンを定めている学生が多いことがわかった。ビジョンの内容については正確に把握できていないが、学科によって分類できそうであれば、学科毎に、関連のある仕事をしている社会人をゲストスピーカーとして招き、講義を実施することで、将来のビジョンを定めている学生の支援ができるのではないかと考える。今後のキャリア教育を組み立てる際に検討していきたい。

註

- 1 厚生労働省（2015）「大学等におけるキャリア教育プログラム」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/shokugyounouryoku/career_formation/career_consulting/career_kyouiku_programs/index.html
（閲覧日 2015 年 9 月 9 日）
- 2 経済産業省（2006）「社会人基礎力」
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
（閲覧日 2015 年 9 月 9 日）

参考文献

平尾元彦（2005）「キャリア教育の手法としてのキャリアインタビュー」『大学教育 第2号』pp. 85-94